

2023 年合格目標 管理会計論(論文対策講義) 関西収録

論文対策講義(全7回) 関西収録の講義方針 ⇒ TAC HP より抜粋

受験経験者は無意識に、論文式試験で合格点をとるためには、難解な問題を解く計算力と、多くの細かい理論問題の解答暗記が必要であると考えがちです。しかし、論文合格者が語る視点はまた違います。大切なのは「原価計算の目的」5つを源とする受験管理会計論の「基礎の徹底」だということです。当講義では、この合格者の視点にフォーカスし、テキストのインプットの徹底を行います。これを通じ、論文式試験当日、平易な計算問題や理論問題はストレスなく解答し、難解な計算問題や理論問題は華麗にスルーしたり、点数を拾ったりする能力、センスが習得できます。管理会計論が苦手な方にも得意な方にも、知的好奇心を満たしつつ、最短距離で合格を勝ち取るための贅沢な講義を提供します。ハートに火をつける論文対策講義をぜひ体感してください。

その心は

私の講師経験からすると、管理会計論の論文答練や論文式本試験で十分な点数がとれない受験生の大半は、「テクニック」が足りないのではなく、「インプット」が足りないのです。

★論文式本試験で問われる理論問題・計算問題を神格化しすぎていないか？

たとえば、令和4年論文式会計学(午前)の、第1問と第2問を見てください。

出題されている理論問題を見て、これまで自身が行ってきた理論の理解と暗記の「方向性」、「質」、「量」は適切と思いますか？

出題されている計算問題を見て、これまで自身が行ってきた計算演習の「質」、「量」は適切と思いますか？

基本的な問題を確実に正答できるかによって、驚くほどの点差がつき、難解な問題では全く差がつかないことを、本当に理解したうえで学習をしてきましたか？

界限の人々(予備校関係者や過年度合格者や受験生)が、意識的あるいは無意識的に醸成した「管理会計論は難しい」というムードに流されていませんか？

再チャレンジとなった受験生は、管理会計論の解答「テクニック」を習得する前に、今一度、知識「インプット」の質と量が十分であるかどうかを自問自答すべきです。

野球で例えるなら、素振りでスイングの型を身に付ける、走り込みで足腰を鍛える、そういう練習が大切であるのに、いきなり、バッティング練習をしていないか？実践的なノックを受けていないか？ということです。

「アウトプット」練習に耐えうる「インプット」が完了しているかを測るバロメーターとしては、例えば次のようなもので、このすべてを満たせば、だいたい OK です。

- ①例題集、トレーニングのすべての問題を自信をもって解ける。
- ②原価計算基準の原価計算の目的(P3)を説明できる。
- ③製造間接費は、「部門別に予定配賦」することが原則である(P44)理由を説明できる。
- ④個別原価計算の正常仕損費の処理(直接 OR 間接経費)の適合状況(P93)を説明できる。
- ⑤等級製品と連産品の相違点(P158)を説明できる。
- ⑥標準原価計算の目的(P166)をすべて順番どおりに説明できる。
- ⑦コミテッド・コストとマネジド・コスト(P266)を区別する理由を説明できる。
- ⑧資金管理の所要運転資金の式(P295)の意味するところが説明できる。
- ⑨ABC と ABM の関係(P317)を説明できる。
- ⑩設備投資意思決定の経済的効果の 2 つの求め方(P346)が説明できる。

これらについて、まったく不安がないのであれば、Web(関東収録)の論文対策講義を受講することを勧めます。毎回の講義のなかで、論文式本試験の過去問を解き、解答テクニックを伝授してくれます。

一方で、上記に 1 つでも不安があるなら、これまで管理会計論について、たくさん時間をかけてきた、一生懸命勉強してきたと思っていても、結果的にそれは「インプット不足」であり、勉強方法が根本から間違っていることを自覚し、直ちに学習方法を改め、インプットをやり直すべきです。

私はかつて短答式本試験で不合格となったとき、心を入れ替えて勉強をしました。

上級講義を一通り受講し終えているという変な自負は完全に捨て、基礎力の面では順調に学習を進めている初学者にも負けているのであると自覚して、謙虚な気持ちで取り組みました。

必要なインプットの質、量については、私は自身の合格・講師経験から熟知しており、私の論文対策講義は、アウトプットに耐えうる知識のインプットに重点を置いて進めます。

論文対策講義(関西収録)の進め方

- ①別途配布の【学習進度表】に従い、基本的には、毎回 3 時間のインプット講義をします。
- ②講義内で過去問を解くことはしません。

★★学習上の注意★★

講義で理解と暗記が不十分だと感じた箇所については、必ず、「Web 論点別対策講義」または、Web の「基礎マスター講義」・「上級講義」を視聴し、トレーニングを解いてください。

総合問題集は余裕のある人のみで OK ですが、論文理論問題集のみの回転はやめましょう。

それでも、論文のアウトプット練習の機会は、こんなにあります。

アクセス答練(全 14 回)
論文基礎答練(全 3 回)
論文応用答練(全 2 回)
論文直前答練(全 3 回)
論文全国模試(全 2 回)